

# 重陽の節句展

「京の五節句と年中行事」



「重陽の節句」は旧暦九月九日に行われた節句です。「菊の節句」「重九の節句」「九月節句」「栗の節句」とも呼ばれています。「重陽」とは陽数(奇数)が重なるという意味で、菊の効能により不老不死となった「菊慈童」伝説や、九月九日に「茱萸囊」を持ち山に登り、「菊酒」を飲んだところ災いが消えたという故事が中国より伝わり、菊は邪気を祓う延命長寿の花とされました。

平安時代の宮中では「菊花の宴」が催され、菊酒を飲み、茱萸袋を飾り、着せ綿を楽しみ、延命長寿を祈りました。

明治維新後、旧暦から新暦に変わり九月九日は菊の開花の時期との関係から、重陽の節句が一般で楽しまれることは少なくなりましたが、京都では寺社や地域で今も受け継がれています。

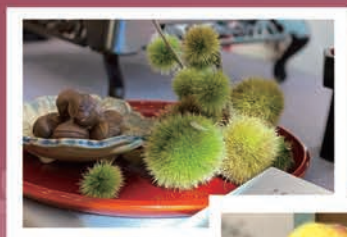
暮らしの文化の継承につなげ、溢れる菊の香りと「百歳雛」の展示などを通じて、皆様の無病息災、健康長寿をお祈りすることを目的とした、「重陽の節句」展を開催します。

主催 京の暮らしの文化普及啓発実行委員会、上京ふれあいネット運営協議会  
協力 いけばな嵯峨御流石川利佳甫、京人形 大橋式峰、国定織物株式会社、  
有限会社テララ貨物店、Art Gallery be京都

日時 令和5年 9月5日(火)～8日(金) 午前9時～午後5時

場所 上京区総合庁舎1階 区民交流ロビー

問合せ 上京区役所 地域力推進室(企画担当) 電話 075-441-5029  
FAX 075-432-0566



# 「重陽の節句を楽しもう」



重陽の節句とは、毎年9月9日に行われる五節句のうちの一つで、別名「菊の節句」と呼ばれています。菊の生け花、菊を添えた食へ物、菊の文様の器など、菊にまつわるものを組み合わせて、長寿を祈り、健康で幸せな日々が続くことを願いながら重陽の節句を楽しみましょう。

## 重陽の節句には何を？

### 菊の着せ綿

重陽の節句の前夜に菊の花を綿で覆い、翌日に露と菊の香りが染み込んだ綿で体を拭いて、邪気を祓い健康と長寿を願うという風習がありました。

この行事は「源氏物語」「枕草子」「紫式部日記」などにも記されています。「後水尾院当時年中行事」には、ひとりが白3輪、赤3輪、黄3輪の計9輪に綿を着せ、又その上に、しべのように白には黄、赤には白、黄には赤の小綿を乗せると書かれています。庶民は白い大きな綿を小菊などに掛けて、皆で分け合いました。



**菊枕**  
菊を詰めた枕で眠り、菊の香りで邪気を祓い、美容や健康を願います。

### 茱萸袋(茱萸囊)

「くみぶくろ」とも呼ばれます。中国では邪気を避け、延年の効力があるといわれる「呉茱萸(わはじかみ)」の実を袋に入れ、身に付けました。宮中では御簾や御帳に掛けましたが、日本には「呉茱萸」がなかったため、「山茱萸」や「茱萸」が飾りに用いられています。

### 百歳雛(ももとせびな)

ともに白髪となったおめでたい人形です。江戸時代から健康と長寿を祝う人形とされてきました。現在は還暦や米寿のお祝いとして喜ばれるだけでなく、「後の雛(のちのひな)」という風習でも飾られます。「後の雛」とは、桃の節句(ひな祭り)で飾ったひな人形を、半年後の重陽の節句で虫干しを兼ねて再び飾り、不老長寿、厄除けなどを願う風習で、江戸時代に庶民に広がったとされています。



## 重陽の節句には何を食べる？

### 栗ごはん

菊の節句は「栗の節句」ともいわれ、蒸した栗や栗ご飯を食べ、祝います。食用菊のおひたし、ナスなどの旬の食材をいただくのも良いでしょう。



### 菊酒

お酒に菊の花を浮かべ、菊を眺めて、楽しみながらお酒をいただき、長寿を祈ります。



### 「着せ綿」を模した和菓子

重陽の節句に合わせて、こなしや練切りで菊花を作り、白の薯蕷をきんとんに仕立て綿に見立てた和菓子もこの時期ならではです。



重陽 MEMO

## 重陽の節句に伝わる不老不死伝説「菊慈童」

菊のパワーを物語る、古代中国の説話があります。

周の穆王(はくおう)に仕えていた侍童が、王の枕をまたいだ罪で酈縣山に流されてしまいます。

ところが悪気がないことを知り、哀れに思った王から、枕に書いた「二句の傷(ふ典の詩)」を与えられます。

侍童はそれを、山中の川のほとりに咲く菊の葉に写して書きました。すると、その菊の露が霊薬となり、その露の流れた川の水を飲んで侍童は700年後(太平記では800年後)まで若々しくそのままの姿でおりました。

という、菊の効能により不老不死となった伝説です。

謡曲で広まり、観世流では「菊慈童」他流では「枕慈童(まくらじどう)」と呼ばれています。

祇園祭の「菊水鉾」もこのお話が元となっています。

